

＝子ねこを迎える準備＝



いよいよ子猫を我が家へ迎え入れる日が近づいてきました。これから新しい家族になる子猫に必要なものは、前もって用意しておきましょう。あるいは、子猫をペットショップなどから連れて帰るときに合わせて揃えましょう。

子猫といっしょに生活をする上で必要になるものをご紹介します。

◆ 用意するもの

- 子猫用のフード
- 水やフードを入れる器
- トイレと砂
- お手入れ用品(爪とぎ・爪切り・ブラッシング用ブラシなど)
- キャリーバッグ(動物病院へ行くなど移動時に使用)
- 猫のベッド(母猫の感触に近い材質が適切です)
- ハウス(段ボール箱で可)安心して休めるように。
- 飼育環境や月齢によって必要なものを順次用意していきましょう。
(キャットタワー、おもちゃなど)



◆ 準備

子猫を迎える前に、ぜひ知っておきたいことをいくつかご紹介します。

- 1) 子猫が外に飛び出してしまうことのないように、窓やドアが開いていないか確認しましょう。
- 2) 人間の食べ物はもちろん、洗剤などの液体やガラス、陶器など壊れやすい物、危険物は、子猫が触れられない場所へ移動しておきましょう。
- 3) 子猫が噛んだりしないように、電気コード類、ビニール袋などは片付けておきましょう。
- 4) 靴やスリッパは子猫がかじったりしないように、靴箱などにしまいましょう。
- 5) お風呂場やトイレ、流し台などに、洗剤やシャンプーなど子猫にとって有害なものが届く範囲に放置されていないか確認してください。
- 6) お留守をされる場合は特に事故の可能性を排除したのを確認してお出かけ下さい。
- 7) 子猫の場合は特に、いつもと違う、元気がないと気づかれたら【様子を見る】のではなくすぐどうぶつ病院でみてもらってください。
- 8) 子猫は母猫を恋しがります。なるべく母猫の感触に近い毛布などを用意して安心させてやってください。
- 9) ストレスが病気を発症させるということが多いとされています。どうしたら猫が落ち着くか・喜ぶかを想像して対応していただきますよう。



子猫のしつけ

◆ 社会的スキル



成長期の子猫は、毎日多くの経験を通してさまざまなことを覚えていきます。好奇心が旺盛な時期に、家族以外の人や他のペットたちと触れ合い、新しい体験をすることは、今後の子猫の生活にとって重要なことです。ワクチン接種を終え、獣医師から許可が出たら、少しずつ子猫に家族以外の人たちを紹介してあげましょう。

子猫は生後3週間頃になると、最初に目と耳が開き、自分の周りの世界を探検し始めます。最初の学習期間はこの頃に始まると言われ、

子猫にとって大きな意味を持ちます。自分で歩き回ることができるようになると、新しいことや周囲にある物に対して興味を持ち始めます。

子猫は、生後7週間頃から用心深さを持ち始めるので、その前にできるだけ多く、新しい事柄に触れておくことも学習方法の一つだと考えられています。また、それは子猫のストレスを減らすことにもつながります。

◆ 飼い主の心構え

子猫が初めて経験することや未知の状況に置かれたときは、あなたが自信を持って、怖がらなくても大丈夫だからと諭し、安心させてあげましょう。あなた自身が不安がったり心配したりすると、子猫はあなたから発せられる信号をキャッチして、「これは何か問題がある」と思ってなおさら不安になってしまいます。「よしよし」と声を掛けてあげるなど、落ち着いた態度を見せれば子猫も安心するのですから。

◆ 名前に対する親しみを持たせる

子猫はまだ自分の名前が認識できていません。まずは、子猫の食事中や、あなたが子猫を撫でているときに何度も子猫の名前を呼び、自分の名前を認識してもらうことから始めましょう。そして次は、子猫の名前を呼び、呼んだ人を見る、呼んだ人のもとへ来る、という練習もしてみましょう。

子猫を呼ぶときは、自分の名前といいこと、楽しいことを関連づけて覚えてもらうため、叱りたいときに子猫の名前を呼ばないようにしてください。また、子猫が混乱しないよう、家族全員が同じ呼び方で呼ぶように心がけましょう。

◆ 爪研ぎ



子猫は2-3カ月くらいになると、爪研ぎを始めます。猫の爪研ぎは、ときには問題になるものです。家具などで爪を研ぐ癖がつかないように、子猫のうちから爪研ぎの場所を教えましょう。

まず、愛猫に爪研ぎ柱を見せて、上からオモチャなどをぶら下げて、遊ぶことを促してみましょう。または、小猫の前足を優しく取り、爪とぎ

柱に触れさせてみてください。

子猫の食事

猫種や性差、個体差によって異なりますが、成長期の子猫は、生後6カ月までに骨格が大きく成長し、体重も増え、場合によっては成猫体重の75%にまで達することもあります。丈夫な骨格を作り、しなやかな筋肉の成長や発達を促すためにも、子猫の成長期に最適な栄養バランスの整った高品質なキャットフードを選びましょう。

◆ 子猫に必要な栄養

身体がぐんぐん成長し、好奇心が旺盛で運動量の多い子猫にとって、体重1kgあたりに必要な栄養は成猫よりも多いとされています。

通常、子猫用のキャットフードには、成長期の子猫の発達に十分な量のたんぱく質や、骨関節や歯の形成には欠かせないカルシウムやリン、マグネシウムなどの必須ミネラルも含まれています。

◆ 離乳

生まれたばかりの子猫は、母猫からの初乳を通して、免疫力を備えます。母乳には、抵抗力やお腹の弱い子猫に最適な栄養が豊富に含まれており、脳や目の発達をサポートするDHAなどもその一つです。

子猫の離乳期は4-6週齢の間で、ほとんどの子猫は3-4週齢になると、母猫の食べている固形のドライフードに関心を示し始めます。母猫といっしょに暮らしている子猫は、遊んでいるときに母猫のフードが入っている器に足を突っ込み、肉球についたフードを舐めているうちに興味を持つようになる、ということがよくあります。

妊娠期の猫や授乳期の母猫には、より栄養の高いフードが必要ですが、こういった動物行動学の観点からも、妊娠期の猫や授乳期の母猫に子猫用のフードを与えることをおすすめしています。

子猫がフードに興味を示し始めたら、様子を見ながら少しずつ子猫用フードを試してみてください。まずは、母猫に与えている子猫用のフードをぬるま湯や水でふやかし、柔らかくして与えてみましょう。性格がデリケートな子猫の場合、まず少量を口元につけてあげるとスムーズに食べてくれるかもしれません。

最初のうちは、母乳とふやかしたドライフードの両方から栄養を摂取しますが、成長が進むにつれて、自然にドライフードを食べる量が増えてくるはずです。

乳歯が生えてくるタイミングを見計らいながら、少しずつぬるま湯や水の量を減らし8週齢頃を目安に、ドライフードへシフト完了してください。



子猫の健康

◆ 遊び



成長期の子猫にとって、飼い主といっしょに遊ぶことは、骨や骨格を形成する上でもとても重要です。ただし、怪我の防止や関節に負担をかけないためには、激しい遊び、急激な運動などは避け、無理をさせないように注意しましょう。また、子猫の体力には限界がありますので、遊びや運動だけでなく、十分な休息や睡眠の時間も確保してあげてください。

◆ 獣医を訪問する

子猫を迎える前には、近所で信頼できる獣医師を探し、診察時間などを確認しておくことをおすすめします。子猫を自宅に迎えたら、なるべく早めに動物病院で健康診断を受けましょう。

子猫の時期は免疫力が十分ではないので、ワクチン接種が完了していない間は、動物病院でも他の飼い主や愛猫たちとの接触は避けた方がよいでしょう。

子猫は初めての場所で、知らない人や他の愛猫たちに囲まれ、とても不安なはずですが、温かい言葉で励ましなが、少しでもリラックスできるように配慮してあげてください。

子猫の健康状態やワクチン接種について疑問があれば、その場で獣医師に何度でも聞いて確認し、また獣医師から受け取った健康診断書やワクチン証明書は、自宅で大切に保管しましょう。

自宅に戻ったら、子猫を静かな環境でゆっくりさせてあげてください。

❖ 日々の注意

脱走防止・・・絶対に家の外に出さないこと。出てしまったら命取りになります。

つい、うっかり玄関や室内の窓を開けたままにしてしまったために脱走してしまい悲惨な結果（交通事故・感染症・寄生虫・心ない人からの虐待等）

健康管理・・・小さなことでも何時もと違うと感じたら、様子を見るのではなく直ぐに動物病院に連れて行く。

必ず避妊去勢手術を受けてください。



❖ ボランティアの願い

迎えていただいた子猫が、生まれて来た幸せを味わいながらご家族と共に末永く健康にすごせますように！皆様の愛を受けながら皆様の癒しの存在になりますように。